

IS 酸素投与キット (IS シレンテベンチュリマスク)

再使用禁止

ISF0050

【警告】

- 使用方法
- 使用前に接続に誤りがないか、使用前及び使用中に各接続部が機密かつ確実に漏れや閉塞がないか、また、酸素の吹き出しを確認すること。[適切な呼吸管理が行えないおそれがある。]
 - 本品を使用する際は患者の状態をモニタリングし、患者の状態に応じて生体情報モニタを併用すること。[患者の異常を発見できないおそれがある。]

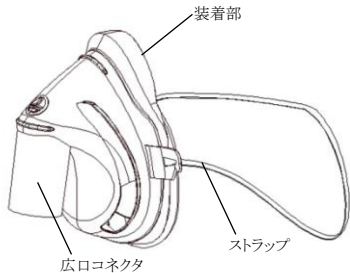
【禁忌・禁止】

- 併用医療機器
- MR環境下では使用しないこと。[「相互作用」の項参照。]
- 使用方法
- 再使用禁止
 - 本品は火気のある場所で使用したり、油、グリス又は油性の軟膏等発火のおそれのある物を近付けて使用しないこと。[火災、爆発による火傷のおそれがある。]

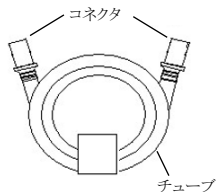
【形状・構造及び原理等】

1. 形状

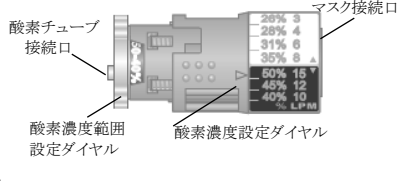
- (1) エアゾールマスク
小児用



(2) 酸素チューブ



(3) マルチインサート



2. 材料

マスクの装着部は熱可塑性エラストマー製である。

3. 種類

サイズ	マスク形状
小児用	
成人用	

4. 原理

機器から供給された酸素は、ベンチュリ効果により調節された量の空気が混合されて目的の酸素濃度に希釈される。マスク本体の周縁部を患者の顔にあてることにより、機器から供給されて酸素希釈器で目的の酸素濃度に希釈したガスを患者の気道に供給するための通路として機能する。

【使用目的又は効果】

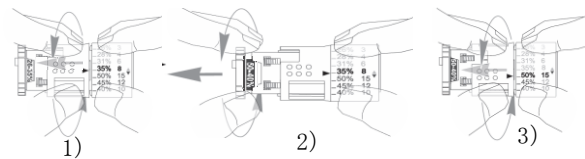
本品は、酸素供給に用いる器具のキットである。

【使用方法等】

1. 酸素濃度範囲設定ダイヤルおよび酸素濃度設定ダイヤルを引き回し、希望の酸素濃度を選択する。酸素濃度選択後、両ダイヤルがロックされ回らないことを確認する。

＜必要な酸素濃度が 40%～50% の場合＞

- 1) 緑色の酸素濃度設定ダイヤルを引いたまま回し、35%に設定する。
- 2) 灰色の酸素濃度範囲設定ダイヤルを引ききったまま、回しきり50-40%に設定する。
- 3) 緑色の酸素濃度設定ダイヤルを引いたまま回し、必要な酸素濃度を選択する。



＜必要な酸素濃度が 26%～35% の場合＞

- 1) 緑色の酸素濃度設定ダイヤルを引いたまま回し、50%に設定する。
- 2) 灰色の酸素濃度範囲設定ダイヤルを引ききったまま、回しきり26-35%に設定する。
- 3) 緑色の酸素濃度設定ダイヤルを引いたまま回し、必要な酸素濃度を選択する。

2. マルチインサートをエアゾールマスクの広口コネクタに押しひねりながら接続する。
3. 酸素チューブを介して酸素供給ラインを酸素希釈器に接続する。
4. 選択した酸素濃度に必要な推奨流量となるようにフローメータを設定する。表に示す酸素流量までは酸素濃度は変わらずに患者供給流量が増加する。
5. しっかり接続されていることを確認する。
6. マスクが患者の鼻と口を覆うようにして当て、ストラップを耳の上から首の周りに掛ける。成人用は耳の下から掛けることも可能である。
7. ストラップの両端をそっと引張り、マスクを患者の顔に固定する。

＜酸素希釈器の酸素濃度と推奨酸素流量の関係＞

酸素濃度	推奨酸素流量	酸素流量(LPM)										
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	15
26%	3LPM	47	63	78	94							
28%	4LPM		45	56	67	79	90					
31%	6LPM				47	55	63	71	79	87		
35%	8LPM						45	51	56	62	68	84
40%	10LPM								42	46	50	62
45%	12LPM										39	49
50%	15LPM											41

＜使用方法等に係る使用上の注意＞

- 酸素濃度を設定する際は、使用方法に従い緑色の酸素濃度設定ダイヤルを35%又は50%に設定してから、灰色の酸素濃度範囲設定ダイヤルを引き回すこと。[製品が破損するおそれがあるため]
- 空気取込口を塞がないようにすること。[空気取込口が塞がれると空気を取り込めず設定より酸素濃度が上昇するため]

【使用上の注意】

＜相互作用(他の医療機器等との併用に関する事)＞

- ・併用禁忌(併用しないこと)

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
磁気共鳴画像診断装置(MRI装置)	MR環境下では本品を使用しないこと。	本品には金属が使用されているため、MR装置への吸着、故障、破損、火傷等がおこるおそれがある。

- ・併用注意(併用に注意すること)

気泡型加湿器と併用する場合、十分な酸素が供給されないことがある。[バックプレッシャーがかかり、加湿器の安全弁が作動することで患者への酸素流量が変化する]。このような場合は、加湿器を外して使用すること。

【保管方法及び有効期間等】

＜保管の条件＞

- ・水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて室温で保存すること。

＜有効期間＞

包装の使用期限欄を参照[自己認証による]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】**■製造販売業者**

株式会社インターメドジャパン

大阪市中央区道修町1-6-7 TEL:06-6222-1951

■外国製造所

インターサージカル社 (Intersurgical Limited) 英国



—製造販売元—

株式会社 インターメド ジャパン